

## 2020年度事業報告について

### 1 事業概況報告について

二本松市から指定管理を受けている「道の駅ふくしま東和（東和活性化センター）」をゆうきの里の活動の拠点として、里山の経済活性化のための六次産業化の推進、多様な交流の展開、震災後の里山の再生・復興の取り組み活動、そして地域の情報発信等を目指して活動してまいりました。

六次産業化の取り組みの一端である桑製品の自社製造については、自社による加工を開始してから5年目を迎えましたが、販売先の確保が進まず、「桑の町東和」としてのブランド化にはまだ「道半ば」の状況にあります。

東日本大震災発生後から9年目を迎え、原発事故による放射性物質の影響は徐々に薄れつつあり、農業の生産活動や生活も震災前の状態に戻りつつあると感じられる年でありました。

しかし、2019年11月に発生した新型コロナウイルスは、世界中の人々の生活を一変させ、感染防止ワクチンが開発されたものの接種が進まず、感染者の増加に歯止めがかからない状況が続いており、様々な活動に影響を受けております。

特に都市部の方との各種交流事業はそのほとんどが中止となり、道の駅としてのイベントも中止若しくは規模縮小での開催を余儀なくされました。

震災後は生活や生産環境が変化するも、多様な事業・活動に取り組んできました。

特に販売する農産物の放射性物質の測定は欠くことのできないものと判断し、6つの約束事に加えて測定の継続を堅持してきました。

農産物については深耕や灌水などに気を配り、生産しても食べる前に測定しないと安心できないという意識が潜在化しつつあり、測定結果による安全が安心を担保してくれる取り組みとして評価されてきました。

ホールボディカウンターも継続的に行っており、14回目の測定を11月に実施し、内部被ばくの状況を検証しました。

あぶくま館店舗部門では、ブランド野菜「東和げんき野菜」等の直売所や福島市内の他店舗への販売促進を行いました。前述の通り新型コロナウイルスの影響により都市部での区民祭りや多様なイベントはことごとく中止となってしまう、「東和げんき野菜」のPRと販売が皆無となってしまいました。

販売促進にあたっては、直売所のメリットを最大限に活かすため、あぶくま店舗の環境づくりと整備に努めました。

一方、定着してきた「日本蜜蜂倶楽部」の活動については、毎月8日を「蜂(ハチ)の日のイベント」として開催し、多くの方々に関心を寄せていただき、来場も増えており、賑わいと売り上げにつながってきました。

特産加工部門では、メイン商品である桑茶において大手取引先からのキャンセルが発生したことにより販売数量が大幅に落ち込み、在庫が膨れ上がったため、桑茶加工を中止しました。

なお、里山ソース、アイス、ジャムなどの協議会独自の商品は根強い愛好者に利用されており、アイス部門のナチュレでは数種類のジェラートなどの製造販売に努めてきましたが、売り上げは前年を下回りました。食堂部門のみちくさ亭の売り上げについても前年を下回る結果となりました。

ゆうき産直部門では、生産拡大のため、種苗、堆肥購入費の一部助成をしました。出荷制限となっているワラビの生産拡大を継続するため育苗を継続し、芽出ししたポット苗を希望者に譲渡しました。

交流定住部門においては、各種ツアーを企画し、交流人口の拡大や農家民宿の利活用、道の駅での買い物、農業体験など、地域経済につながる取り組みを計画していましたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、それらの活動を見送りせざるを得ませんでした。

さらに、恒例となっていました人事院行政初任者の研修についても今年度は中止となっております。

その他、例年多くの視察等の申込みも今年度はほとんど見合わせとなりました。

以上述べましたように、様々な取り組みを行いましたが、売上を伸ばすまでには至らず、売上は前年を下回る結果となりました。

高齢化による農産物の出荷量の減少傾向や3桁国道の沿線に設置されている道の駅であること、加えて夏の猛暑等の影響や新型コロナウイルスの流行で客足が遠のいたことなどが要因として思慮されます。

引き続き、売り上げにつなげられる事業運営を模索・研究してまいります。

各種の事業や活動について、行政機関をはじめ、多くの関係者のご支援と会員のご理解・ご協力の賜と感謝申し上げます。

以上、事業概況報告といたします。

## 2 三つの再生の取り組み報告について

### ・農地の再生

#### ① 「東和げんき野菜」の普及

有機的栽培と自主基準管理による「東和げんき野菜」の自主基準をクリアした「東和げんき野菜」の認定シール13,8万枚分（昨年16,1万枚、前年比で85,7%）の農産物を出荷しました。

#### ② 耕作放棄地の解消

耕作放棄地をなくすため、生産者会議等で生産拡大に向けた種苗等の斡旋等を行うとともに、種苗と堆肥に助成を行いました。

#### ③ 放射性物質の検査

農地と農産物の放射性物質の検査を行い、農産物への放射性物質の移行の有無の測定を行いました。

#### ④ 圃場の土壌診断

農作物出荷者の圃場の土壌診断により、施肥設計に努めました。

### ・山林の再生

山林資源を活用した、キノコ栽培や堆肥化による、山林再生のための情報収集を行いました。森林の多面的機能等の理解を深めるための取り組みについては、部分的な話し合いもなされましたが、全体的な取組としては今年度も前進させるまでに至りませんでした。

なお、野生のワラビについては、いまだ放射性物質の影響で採取が見込めないことから、栽培ワラビの生産拡大を目指し、昨年度に引き続き育苗を行い新規生産者を募りました。

・コミュニティの再生

高齢者から子孫へ地域をつなぐ一環として、農業従事者等会員を中心とするホールボディカウンターによる測定を行いました。そのほかに、生産者会議やイベント、道の駅の環境整備などにより、会員相互のコミュニティが図られました。

### 3 委員会報告

#### (1) 特産加工推進委員会

##### ◆委員会方針

「桑の里づくりを目指し、桑事業（商品開発・製造・販売）の展開と六次産業化により、特産品として持続可能な体制整備を進めました」

##### ◇令和2年度実績・反省点

- ・大量に抱えていた2018年産の荒茶をダンピング価格で全量売却することで、2021年度の新たな桑の生葉購入見通しが立ちました。
- ・ジャム・漬物ともに無計画な製造が行われていたため、製造の見直しを図り計画的な生産体制を確立しました。
- ・鈴木運送で保管していたソースの原料と桑の実を回収したことから、保管料の削減ができました。（ソース原料は処分しました）
- ・新型コロナウイルスの影響で桑茶・漬物ともに販売量が今年度の計画を下回る結果となりました。
- ・ジャムは冷凍桑の実の販売が大半を占めたことで今年度の計画を下回る結果となりました。
- ・伊達な桑茶本舗と取引開始となり、少量ではありますが売り上げにつなげることができました。

##### ◇加工部門販売内訳

単位：千円（税抜）

部 門	2020年度計画	2020年度実績	計画比	摘 要
桑加工	14,741	10,921	74.1%	パウダー、お茶
ジャム等加工	1,095	241	22.0%	桑の実、里山ソース
漬物加工等	1,021	996	97.6%	漬け物、梅干し、凍みもち等
合 計	17,227	12,158	70.6%	

#### (2) あぶくま館店舗委員会

##### ◆委員会方針

「道の駅の魅力をアップさせて、集客の減少傾向に歯止めをかけました」

「里山の直売所の魅力アップとげんき野菜を中心とする販売に努めました」

- ・今年度は客数の増加を主要な目標として掲げましたが、新型コロナウイルスの影響が大きく、客数は前年比97%に留まりました。
- ・ナチュラルのジェラートは人員不足のため5月7日～6月14日の間、一時休業しました。
- ・商品力向上としては、旬の果物として新たにいちご・桃・みかんを仕入れ、約50万円の売上となりました。花（鉢物）の取扱いは年間を通して行い、野菜苗を含む約5千鉢（ポット）200万円の売上となりました。今後は仕入

れ先を複数にして売上拡大を目指します。

- ・レジ回りの新型コロナウイルス感染防止対策として、アクリル板の仕切り設置や、ソーシャルディスタンスのための目印テープの貼り付けを行いました。また、職員においては毎朝の検温の記録や消毒を徹底しました。
- ・総菜部門では年間を通しソースかつ丼の販売を行いました。冬季は去年に続き凍み餅の販売も行い、地元特産商品としての定着に努めました。
- ・日本蜜蜂倶楽部定例会は新型コロナウイルスの影響で4・5・6月は開催ができませんでしたが、それ以降は例年通り開催しました。「蜂の日」として定着し、多くのお客様に参加していただける日になりました。
- ・コンプライアンスの順守としては、HACCPの義務化に伴う準備として、県北保健所の説明会へ各部門担当者が参加し、今後の対応について学び、対応できるようにしました。
- ・新食品表示法の対応では開始時に間に合わない商品群が一部ありましたが、最終的には全て対応が出来ました。また、消費税の総額表示への移行を今度中に完了しました。
- ・レジ袋有料化に関しては空段ボール箱の準備等の対応を行い、トラブルはありませんでした。現在までのレジ袋購入率は約90%減少となりました。
- ・運営力の向上としては、商品の品切れをなくすため、販売数量に基づいて発注時期と数量を決める習慣づけを徹底するようにしました。今後は職員一人一人のスキルアップを図り、働きやすい職場・お店作りを目指します。また、今年度はポイントカードの作成ができませんでした。

◇あぶくま館店舗部門販売内訳

単位：千円（税抜）

部 門	2020年度計画	2020年度実績	計画比	摘 要
展示販売	79,513	69,865	87.9%	あぶくま館
他店舗販売	(12,271)	(10,843)	(88.4%)	ヨーカドー・ユープ・市場屋 たなつもの
資 材	700	461	65.9%	包材等
出張販売	(863)	—	—	区民祭り等
合 計	80,213	70,326	87.7%	

※出典：実績は会計王の部門別実績集計表及び道の駅売上集計表より

◇営利部門販売内訳

単位：千円（税抜）

部 門	2020年度計画	2020年度実績	計画比	摘 要
食堂・惣菜	10,488	8,818	84.1%	みちくさ亭・あぶくま館
アイス	5,036	2,755	54.7%	ナチュレ
合 計	15,524	11,573	74.5%	

※出典：実績は会計王の部門別実績集計表及び道の駅売上集計表より

### (3) ゆうき産直支援委員会

- ◆委員会方針 「ブランド野菜をお届けするため、『有機質肥料の施用』『土壌診断の励行』に努め、品質向上と生産力アップにつながる体制づくりを推進しました」

#### ◇重点実施事項

##### ①土づくりと土壌診断

- ・「東和げんき野菜」の基本となる土づくりと、げんき堆肥の施用成果が分る診断体制づくりを実施し、148検体の土壌診断を行いました。また、福島大学金子教授を講師に招き、自家製堆肥づくり教室を行いました。
- ・農産物出荷会員に対し「げんき堆肥」等購入費用の一部助成として、25,686円の助成を行いました。
- ・ゆうき産直部会の有機質肥料・資材等の共同購入を行いました。

##### ②農産物の品質向上

- ・生産者会議等を通して栽培の技術指導と販売動向の情報提供を行いました。
- ・農産物の品質向上を図るため、収穫祭での農産物品評会を開催しました。過去最高の出品数となり、品質向上や生産意欲向上に貢献しました。直売所視察は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止しました。

##### ③生産拡大に向けた取り組み

- ・農産物出荷会員に対し、39,674円の種苗の助成支援を行いました。
- ・野菜生産者の会員勧誘活動を進めました。

##### ④学校給食への食材提供の推進を図りました。

##### ⑤春の直売所の賑わいを取り戻すため、栽培ワラビの育苗と生産拡大を図りました。

##### ⑥高齢化に伴う農産物の委託集荷を計画しましたが、利用者はありませんでした。

単位：千円（税抜）

部 門	2020年度計画	2020年度実績	計画比	摘 要
ゆうき産直	15,192	13,941	91.7%	トマト・キュウリ・ミニトマト・ナス・ネギ・カブ
学校給食	200	225	112.5%	なめこ
合 計	15,392	14,166	92.1%	

※ゆうき産直分は北庄フューバー（株）、福島中央青果株式会社の売上分のみ

※学校給食は実績

### (4) 交流定住促進委員会

- ◆委員会方針 「東和の魅力をもろごと活かした『行ってみたい、また来たい、いつか住んでみたい』交流と地域づくりを推進しました」

#### ◇令和2年度実績・反省点

今年度は年度当初から新型コロナウイルス感染防止対策の影響により、あらゆる分野で活動が中止或いは縮小されることとなりました。そのことから今年度事業に掲げていた「東和の魅力をもろごと活かした『行ってみたい、また来たい、いつか住んでみたい』交流と地域づくり活動が極めて限定的なものとなりました。

## ◇重点実施事項

### ①新規就農と移住相談及び自立支援と里山暮らしの推進

- ・就農や移住希望者への相談会としては、
  - ① 10月10日「ふるさと回帰フェア2020」（オンライン）
  - ② 11月15日「ふくしま農業人フェア（ビックパレット）」
  - ③ 2月7日 「新・農業人フェア」（オンライン）

の3回に参加しました。10月10日の「ふるさと回帰フェア2020」には、当ブースへの来訪者はゼロでしたが、11月15日の「ふくしま農業人フェア（ビックパレット）」は対象者を県内在住者に限定していたことから当ブース訪問者は4名で、そのうち1名は12月19日に開催した「モニターツアー」に参加されました。また、今年2月7日に開催された「新・農業人フェア」Zoomソフト使用によるオンライン出展でしたが、当ブースへの来訪者は9名おり、住所等の告知があった4名を対象に「モニターツアー」を案内しました。ただ、コロナ感染防止の兼ね合い等からツアーの申込者はゼロであり、ツアーの開催とはなりませんでした。

- ・相談会やセミナー、ツアーでは新規就農者や移住者にも協力をいただき、生の声を聞いていただくことにより相談会の充実を図りました。
- ・移住定住の誘導のため、空き家や遊休農地等の情報収集と移住希望者への情報提供を行いました。

### ②地域資源を生かした多様な交流の展開と情報発信

- ・教育旅行の受入れを推進するため、旅行会社の問い合わせ等に対応しましたが、3月30日に東京都八王子市立浅川中学校の関係者等と体験旅行について打ち合わせを行いました。
- ・6月には国家公務員の初任者研修生受け入れの予定にありましたが、コロナ感染防止のため中止となりました。
- ・都市との交流事業は、4月の東京東和会の総会や荒川川の手まつり、10月の墨田区民祭りなどほとんどが中止となりました。

## (5) ひと・まち・環境づくり委員会

### ◆委員会方針

#### ①健康づくりの意識喚起と実践

- ・会員の健康相談の機会確保のため、二本松市の協力を受けて健康相談会を開催しました。4月から6月までは新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し中止となりましたが、7月よりは予定通り開催し、相談者は3月までで延べ62名で今年度は相談会始まって以来の少人数となりました。このような状況ではありますが、自分の健康は自分で守る意識は今後も高めていきたいと思えます。
- ・1月15日に今年度の健康増進事業をJA 東和支店の協力のもと開催する予定でしたが、二本松市内から新型コロナウイルス感染者が発生してしまったため中止となりました。
- ・3月21日に健康講演会として、白幡文子氏を講師に迎え「笑いヨガ」を開催しました。参加者は12名でした。ヨガの合い間に桑パウダー宣伝のため桑茶を飲んでいただきました。
- ・始業前のラジオ体操の取組みは職員の参加者が増え意識が上がりました。
- ・第14回目のホールボディカウンターを11月に実施し、体内の被ばく状況を

測定しました。測定者は12名でした。

#### ②桑カードの普及によるレジ袋の減量化

- ・桑カードを活用しもったいない意識の高揚を図りつつ、環境への配慮に努めました。レジ袋の有料化に伴い、マイバックの持参割合が高くなりました。

#### ③農村文化や生活文化の伝承と魅力ある資源の活用

- ・農村文化等の掘り起こしや地域の価値ある資源の活用のための教室を新型コロナウイルス感染防止対策を行い開催しました。
- ・11月15日にはあんぽ柿づくり教室を開催し、23名の参加がありました。
- ・12月13日にはしめ縄づくり教室を開催し、16名の参加がありました。
- ・1月30日にはだんごさし体験を開催し、49名の参加があり、これまでで最多の参加者数となりました。そのうち子どもの参加数が25名で親子の触れ合いや参加者同士の交流の場にもなりました。今回は新型コロナウイルス感染防止のため、参加者にはだんごさし用のだんごだけをこねてもらい、食するだんごは協議会で準備しました。
- ・各種教室開催の周知としてホームページや施設内等に早めに情報発信を行いました。

#### ④生きがい支援と新しい文化の創造の環境づくり

- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止として、創業祭や収穫祭の開催を見送ったためステージでの発表の場を提供できませんでした。

#### ⑤フリーマーケットの開催

- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止として、創業祭や収穫祭の開催を見送ったため開催できませんでした。

## 4 施設指定管理

◆方針 「施設の適正な管理と情報発信による地域の活性化を図り、来館者や利用者の立場になって、施設の環境美化と安全性の確保に努めました」

- ・道の駅及び活性化センターの目的に沿った施設の利用促進に努めました。
- ・施設の快適な環境保持のため定期的な点検と駅周辺の美化活動に努めました。
- ・会員の協力による奉仕作業として、施設内外の草刈等の環境整備を6月と10月に実施し、施設周辺の環境美化を図りました。
- ・地域の情報発信対策として、重点月を絞ってイベントを企画し発信に努めました。
- ・施設の適正かつ円滑な管理運営と交流人口の増大に努めましたが、前年を大きく下回りました。（来館数335, 469人/前年比68.1%）
- ・施設利活用向上のため、視察の受入、農産物の加工・販売、栽培技術指導会、生産者会議、健康相談会等を開催しました。また、地域住民の利用促進に努めました。
- ・施設、設備、機器等の日常的な点検等を行い、利用者の利便性と事故の未然防止に努めました。
- ・施設、設備の基盤的な定期検査、維持管理業務は専門業者に委託して行いました。
- ・日常の管理面では事件・事故・火災の発生防止に努めました。また、火災や盗難などの有事に即対応できる組織体制強化のため、火災訓練、消火訓練、防犯訓練、避難訓練を行いました。
- ・来館者へのサービス向上と緊急時に対処するため、職員の教育と訓練を行いました。
- ・道の駅の利活用増進のため、施設の改修や利活用方針策定等について、市と協議を行い、急を要する箇所等の修繕や整備については、二本松市の迅速な対応により整

備等が図られました。

- ・施設利用の拡大と会員の生きがいつくり、地域コミュニティ増進に努めましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、殆どのイベントが中止・規模縮小となってしまいました。
- ・当協議会の取組や災害復興プログラムなどを活かした視察・研修の受け入れを積極的に行い施設の利用頻度の向上と道の駅の認知度を高めることに努めました。
- ・道の駅のさらなる利便性と利活用を図るため、施設の改修・整備の検討や備品の更新等について市と協議を行いました。

※施設の使用状況

場 所	利用回数	利用人数
会議室	112回	1,007名
ガーデン室	30回	507名
調理室	362回	724名
加工室	11回	13名
駐車場	132回	183名

## 5 災害復興プログラムの継続（2020年度の取り組み）

- ①農産物等の測定による安全性の確認（放射性物質の摂取回避）
  - ・農産物の放射性物質移行防止のための栽培技術の情報収集を行いました。
  - ・放射性物質測定を継続しました。
  - ・本年度の測定件数は208件でした。測定開始から11,104件の測定数となりました。
  - ・出荷物の測定継続の是非等について、今後専門家等の意見を参考に検討を進めます。
- ②農産物の生産拡大と販売出荷支援（風評被害対策）
  - ・「東和げんき野菜」の出荷先チャンネルの拡大と集荷・出荷の支援を行いました。
  - ・農産物生産拡大のため、生産者会議において生産拡大の啓発や種子・種苗の斡旋、栽培技術の提供に努めました。
- ③会員と家族の健康を守る取り組み
  - ・ホールボディカウンターによる測定を行い、内部被ばくの実態の把握に努めました。
- ④企業等からの協力と支援
  - ・NPO法人ふくしま30年プロジェクトと連携により、ホールボディカウンターの測定の円滑化が図られました。
  - ・プレマ株式会社様から機材の無償貸与の継続  
放射能NAI測定器2台、ガイガーカウンター10台
  - ・株式会社カタログハウス様から機材の無償貸与の継続  
放射能NAI測定器1台、放射能NAI空中線測定器1台

## 6 各種補助事業の取組

◇ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会事業主体分（連携等も含む）

- ①地域おこし協力隊員活動支援業務（活動支援、住環境整備、研修）・・・二本松市
- ②野菜生産出荷安定事業（そ菜種苗購入助成事業）・・・・・・・・二本松市
- ③移住定住推進事業（PR活動、モニターツアー等）・・・・・・・・二本松市
- ④新規就農相談業務委託事業（相談業務等）・・・・・・・・二本松市



◇東和地域グリーンツーリズム推進協議会事業主体分  
グリーンツーリズム推進事業（交流・定住促進）・・・・・・・・二本松観光連盟  
（東和地域グリーンツーリズム推進協議会の事務支援を行う）

※これまで実施してきた地域づくり団体支援事業（実行委員会事務等支援）の「賑わ  
いづくり支援事業（夏祭り）」と「あぶくまふるさとウォーク補助事業」は新型コ  
ロナウィルスの影響により中止となりました。

## 4月行事

## 5月行事

1	水	喫煙所引渡	1	金	
2	木	地域おこし協力隊空き家案内	2	土	
3	金		3	日	
4	土		4	月	
5	日		5	火	
6	月	定例運営戦略会議	6	水	
7	火	二本松市新規就農者支援連絡会議、チーフ会議	7	木	
8	水		8	金	
9	木		9	土	決算監査、定例運営戦略会議
10	金	地域おこし協力隊住宅修繕打合せ、えごま打合せ	10	日	
11	土		11	月	
12	日		12	火	チーフ会議
13	月		13	水	
14	火	チーフ会議、緊急五役会議	14	木	
15	水	R2年度過疎・中山間地域事業打合せ	15	金	
16	木		16	土	
17	金	館内清掃作業	17	日	
18	土		18	月	
19	日		19	火	チーフ会議、合同会議・理事会
20	月		20	水	
21	火	チーフ会議、緊急五役会議	21	木	
22	水		22	金	市役所観光課打合せ
23	木	消防訓練、決算処理	23	土	
24	金	地域おこし協力隊住宅清掃作業	24	日	
25	土		25	月	旧上太田小地質調査、市役所との移住関係打合せ
26	日		26	火	チーフ会議
27	月		27	水	横内先生との桑畑打合せ
28	火	チーフ会議、二本松市コロナ対策説明	28	木	
29	水		29	金	停電、特裁現地調査、支所と地域おこし協力隊打合せ
30	木		30	土	
			31	日	

## 貸借対照表

(単位：円)

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

令和3年3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 27,122,501】	【流動負債】	【 20,747,552】
現金及び預金	21,932,754	買掛金	1,975,410
売掛金	1,645,850	未払金	6,373,987
製品	1,510,677	前受金	3,431,000
原材料	1,685,720	預り金	8,895,155
立替金	28,500	納税充当金	72,000
未収入金	319,000	【固定負債】	【 8,712,000】
【固定資産】	【 10,772,959】	長期借入金	8,712,000
(有形固定資産)	( 10,762,959)	負債の部計	29,459,552
建物	5,811,336	純資産の部	
構築物	39,971	【株主資本】	【 8,435,908】
機械装置	4,911,644	[利益剰余金]	[ 8,435,908]
車両運搬具	2	(その他利益剰余金)	( 8,435,908)
工具・器具	6	繰越利益剰余金	8,435,908
(投資その他の資産)	( 10,000)	(うち当期純損失)	( 1,261,706)
出資金	10,000	純資産の部計	8,435,908
資産の部計	37,895,460	負債・純資産の部計	37,895,460

# 損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 2年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 令和 3年 3月31日

科 目	金	額
【売 上 高】		
会 費 収 入	560,282	
管理業務委託料	11,615,456	
売 上 高	35,561,511	
施設使用料収入	6,411,417	
手数料収入	12,829,974	
委託金収入	2,556,002	69,534,642
【売 上 原 価】		
期首商品棚卸高	2,479,644	
仕 入 高	6,333,151	
当期製品製造原価	17,624,637	
合 計	26,437,432	
期末商品棚卸高	1,510,677	24,926,755
売 上 総 利 益		44,607,887
【販売費及び一般管理費】		46,521,529
営 業 損 失		1,913,642
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	103	
雑 収 入	3,234,311	3,234,414
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息	128,491	
雑 損 失	13,787	142,278
経 常 利 益		1,178,494
【特 別 利 益】		
寄 付 金 収 入	124,000	124,000
【特 別 損 失】		
荒 茶 減 耗 損	2,492,200	2,492,200
税引前当期純損失		1,189,706
法人税・住民税・事業税		72,000
当 期 純 損 失		1,261,706

# 販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 2年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 令和 3年 3月31日

科 目	金 額
役 員 報 酬	880,000
給 料 手 当	20,090,914
法 定 福 利 費	2,332,272
福 利 厚 生 費	55,567
謝 礼 費	96,860
通 信 費	818,084
事 業 費	2,172,424
荷 造 運 賃	189,725
水 道 光 熱 費	4,388,066
旅 費 交 通 費	21,494
販 売 促 進 費	1,279,414
広 告 宣 伝 費	183,045
接 待 交 際 費	17,000
会 議 費	469,000
消 耗 品 費	1,862,610
新 聞 図 書 費	101,148
修 繕 費	119,720
地 代 家 賃	1,325,862
車 両 関 係 費	592,732
保 險 料	500,605
手 数 料	660,661
減 価 償 却 費	2,283,201
委 託 料	2,260,409
租 税 公 課	408,398
環 境 整 備 費	18,310
リ ー ス 料	2,864,760
支 払 手 数 料	312,523
諸 会 費	216,725
合 計	46,521,529

# 製造原価報告書

(単位：円)

自 令和 2年 4月 1日

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

至 令和 3年 3月31日

科 目	金 額	
【材 料 費】		
期首材料棚卸高	10,246,893	
材 料 仕 入 高	4,678,729	
合 計	14,925,622	
期末材料棚卸高	7,369,870	7,555,752
【労 務 費】		
給 料 手 当	6,502,843	6,502,843
【外 注 加 工 費】		228,857
【製 造 経 費】		
動 力 光 熱 費	1,656,273	
消 耗 品 費	1,680,912	3,337,185
当期総製造費用		17,624,637
合 計		17,624,637
当期製品製造原価		17,624,637

## 会 計 監 査 報 告

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの、2020年度における業務執行及び財産状況について、令和3年5月8日に監査を執行しました。

その結果について、以下のとおり報告いたします。

### 記

#### 1. 監査の概要

理事長、副理事長及び専務、常務立会いのもと、事業概況の報告を受け、貸借対照表、損益計算書、内訳書及び関係帳票の閲覧により監査を実施しました。各事業等の事業推進状況等については聴き取り方式により実態の把握を行いました。

#### 2. 監査の結果

総会の議決に基づき、事業方針に沿った取り組みが推進されたことを確認しました。

また、各種業務・事業にかかる関係書類・会計簿等の帳票を監査した結果、適正に執行されていたことを認めましたので報告いたします。

なお、本年度の営業損益がマイナスとなったことから、売り上げの回復に向けた取り組みと並行し、重点取組として桑製品の拡販推進及びみちくさ亭の売上向上策を検討されるよう意見として述べさせていただきます。

令和3年5月12日

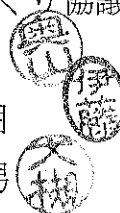
特定非営利活動法人

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

監 事 奥 山 猛

監 事 伊 藤 健 朗

監 事 大 槻 貞 男



## 2021年度事業計画（案）について

### 1 基本理念

- ①里山の恵みと人の輝くふるさとづくりを目指します。  
～ 君の自立、ぼくの自立がふるさととの自立 ～

### 2 基本方針

- ①活気と賑わいの里づくりにむけた『地域資源を生かしたものづくりと多様な交流の展開』を図ります。  
②有機的農業の推進と里山資源の六次産業化による地域経済の活性化を図ります。  
③仲間づくりと地域コミュニティによる笑顔多い喜びの里づくりを目指します。  
④自然豊かな里山の暮らしを活かしたひとの往来と出逢いの場づくりを進めます。  
⑤土づくりと新たな作物の導入による「東和げんき野菜」の生産安定を図ります。  
⑥新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図ります。

#### ◆三つの再生の取り組み

##### ○コミュニティの再生

高齢者から子孫への地域をつなぐ取り組みと、いきいき暮らせる地域づくりをします。  
多様な交流の展開により地域の活性化と新規就農者や移住者の支援を図ります。

##### ○農地の再生

少量多品種作付による耕作農地の維持と土づくりでげんき野菜等の生産を図ります。

##### ○山林の再生

栽培ワラビの生産拡大・普及に取り組みます。

多面的機能を有する森林の保全と出荷制限されている農林産物の出荷に向けた情報収集に努めます。

### 3 本年度の情勢と年度計画への反映

令和元年11月に発症した、新型コロナウイルスは世界中の人々を震撼させる大きなできごととなり、今もって終息の兆しが見えないまま市民生活に大きな影響を及ぼしています。

本年は東京オリンピックの開催が予定され、既に3月25日から福島県檜葉町を皮切りに全国への聖火リレーがスタートし、首都圏1都3県の緊急事態宣言も3月21日をもって解除されましたが、変種のウイルス感染が確認され、感染者の減少の気配が見えない状況にあります。

地域内でも各種の会議やイベントなどが軒並み自粛、延期などに加えて、不要不急な外出をしないことなどの行動制限は、心理作用に大きく影響し、自粛抑制の余波は今後各方面に尾を引いていくものと予測されます。

また、今春は桜の開花時期が早かったことや新型コロナウイルスの終息見込みが皆目見通せない中での道の駅の運営に加えて、大イベントの変更などもあり、人々の動きは平年並みとは異なるものと想定されます。昨年度に続き、来館者数の減少や売り上げの減少・低迷など厳しい経営を見込まざるを得ない状況にあります。

この様な状況を踏まえて、販売計画や伸び率については昨年度とほぼ同程度に抑えざるを得ない状況でありますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



#### 4 各委員会の計画

##### (1) 特産加工推進委員会

◆委員会方針 「桑の里づくりを目指し、桑事業（商品開発・製造・販売）の展開と六次産業化により、特産の持続可能な体制づくりを進めます」

##### ◇重点実施事項

- ①需要と供給のバランスの取れる生産体制を目指します。
- ②新規取引先の開拓に努め販路拡大を目指します。
- ③新商品の企画開発を行い、商品化を目指します。
- ④加工従事者の人材育成及びスキルアップを図り、生産性の向上を目指します。
- ⑤HACCP（衛生管理計画）の義務化に伴う衛生管理計画書を作成します。

##### ◇加工部門販売内訳

単位：千円（税抜）

部 門	2020年度計画	2020年度実績	2021年度計画	前年度実績比	摘 要
桑加工	14,741	10,921	11,000	100.7%	パウダー、お茶
ジャム加工	1,095	241	240	99.6%	桑の実、里山ソース
漬物加工等	1,021	996	1,000	100.4%	きゅうり、大根 凍みもち等
合 計	17,227	12,158	12,240	101.7%	

##### (2) あぶくま館店舗委員会

◆委員会方針 「道の駅の魅力をアップさせて、集客の低下傾向に歯止めをかけます」  
「里山の直売所の魅力アップとげんき野菜を中心とする販売に努めます」  
・今年度は客数の増加を主要な目標として掲げましたが、コロナウイルスの影響が大きく、客数は前年比97%にとどまっています。

##### ◇重点実施事項

##### 1. 商品力を高めます。

##### (1) 商品集荷の体制づくりを検討します。

生産者の足の確保が必要な状況になってきています。東和地区を2つに分けて、週2回、計4回程度の集荷の実験を開始します。

##### (2) 旬商品の取り扱いを拡大します。

##### ①旬商品の取り扱い増加

##### ②果物の取り扱い増加

いちご・さくらんぼ・もも・なし・ぶどう・柿・りんご・みかんなどギフト対応のできる品質の取り扱いを行います。

##### (3) 惣菜の商品開発を行います。

①春の行楽シーズンに合わせて軽食系の商品開発を行います。丼もの、スナック類。

②1日の製造量を金額ベースで10,000円までアップさせます。（現状8,600円）

##### (4) みちくさ亭のメニュー開発の強化。

##### 2. サービスの強化をします。

(1) 盆、秋彼岸、春彼岸に「道の駅・ふくしま東和 花市」を開催します。

(2) 創業祭と収穫祭を実施します。

① イベントの内容については、あぶくま館店舗委員会にタスクを結成し、決定していきます。

### 3. コンプライアンスの順守

- (1) HACCP（衛生管理計画）の義務化に伴う衛生管理計画書の作成とそれに沿った衛生管理を進めます。
- (2) 労働法上不十分な点の解消を計画的に進めます。  
健康診断・有給休暇制度 etc
- (3) 賞味期限設定の見直しを徹底します。

### 4. 運営力の向上

- (1) コロナ感染症対策を引続き実施します。
  - ①新規の対策を積極的に導入します。
- (2) 施設内のクリーンネスを進めます。
  - ①年2回会員による環境整備を引続き実施します。
  - ②年間の清掃計画をもとに施設内の美化に努めます。
- (3) 発注の分担を明確にして発注精度の向上を目指します。

#### ◇あぶくま館店舗部門販売内訳

単位：千円（税抜）

部 門	2020年度計画	2020年度実績	2021年度計画	前年度実績比	摘 要
展示販売	79,513	69,865	73,358	104.9%	あぶくま館
他店舗販売	(12,271)	(10,843)	(11,384)	(104.9%)	ヨーカドー・コープ・市場屋・たなつもの等
資 材	700	461	484	104.9%	包装材等
出張販売	(863)	(863)	(863)	(100.0%)	区民祭り等
合 計	80,213	70,326	73,842	104.9%	

#### ◇営利部門販売内訳

単位：千円（税抜）

部 門	2020年度計画	2020年度実績	2021年度計画	前年度実績比	摘 要
食堂・惣菜	10,488	8,818	9,000	102.1%	みちくさ亭・あぶくま館
アイス	5,036	2,755	2,800	101.6%	ナチュレ
合 計	15,524	11,573	11,800	101.9%	

### (3) ゆうき産直支援委員会

- ◆委員会方針 「ブランド野菜をお届けするため、『有機質肥料の施用』『土壌診断の励行』につとめ、品質向上・生産力アップにつながる技術指導と体制づくりを推進します」

#### ◇重点実施事項

##### ①土づくりと土壌診断

- ・「東和げんき野菜」の基本となる土づくりと、げんき堆肥の施用成果が分る診断体制づくりを目指します。
- ・農産物出荷会員に対し「げんき堆肥」等購入費用の一部助成を行います。
- ・ゆうき産直部会の有機質肥料・資材等の共同購入を推進します。

②農産物の品質向上

- ・生産者会議等を通して栽培の技術指導と販売動向の情報提供を行います。
- ・農産物の品質向上を図るため、収穫祭での農産物品評会の開催や直売所視察などの研鑽により品質の向上を目指します。

③生産拡大に向けた取り組み

- ・農産物出荷会員に対し種苗の助成支援を行います。
- ・野菜生産者の会員勧誘活動を展開します。
- ・高齢化に伴う農産物の委託集荷を定着化させていきます。

④学校給食への食材提供の推進を図ります。

単位：千円（税抜）

部 門	2020 年度計画	2020 年度実績	2021 年度計画	前年度実績比	摘 要
ゆうき産直	15,192	13,941	15,000	107.6%	トマト・ミニトマト・キュウリ・ネギ・カブ・オクラ
学校給食	200	225	250	111.1%	なめこ
合 計	15,392	14,166	15,250	108.0%	

※販売額は北庄フェーバー（株）と福島中央青果卸売（株）の出荷額

※出荷先の変動や気象状況などにより、集荷量が安定化しないため実績を勘案して販売計を作成

（４）交流定住促進委員会

- ◆委員会方針 「東和の魅力をまるごと活かした『行ってみたい、また来てみたい、いつか住んでみたい』交流と教育旅行の推進を図ります」

◇重点実施事項

①新規就農と移住相談及び自立支援と里山暮らしの推進

- ・就農や移住者の相談窓口の充実を図ります。

②移住・定住等の支援

- ・移住定住の誘導のため、空き家や遊休農地等の情報収集と移住希望者への情報提供を行います。
- ・多様なツールの活用により地域情報の発信に努めます。

③地域資源を生かした多様な交流の展開と情報発信

- ・農業体験等の組み合わせによる田舎暮らしモニターツアーや教育旅行の推進を図り、交流人口の増大を目指します。
- ・東京東和会総会や荒川区民祭は延期や中止となっていることから、都市部での開催情報を収集し、参加機会を得て市民等との交流を図ってまいります。
- ・県内外の大学・企業等の研修・視察の受け入れやイベントの参加による地域間、多世代間など多様な交流を促進します。
- ・地域の自然、歴史、産業の資源等を組み合わせた多様なツアーの企画立案と実践を図ります。
- ・受け入れ体制の充実のため、コーディネーターやインストラクターの育成を図ります

④東和地域グリーンツーリズム推進協議会との連携

- ・滞在型交流促進のため、農家民宿や農業体験等の拡大に向けた支援を行います。

## ⑤教育旅行の推進

- ・農村環境や地域資源を活用した教育旅行の推進を図ります。

## (5) ひと・まち・環境づくり委員会

- ◆委員会方針 「生涯現役で暮らせる健康づくりと環境に配慮した里山の暮らしを活かした『ひとと自然に優しいまちづくり』を推進します」

### ◇重点実施事項

#### ①健康づくりの意識喚起と実践

- ・健康相談の機会の確保のため、市と連携し健康相談会を開催します。
- ・生涯健康で暮らすため、健康増進事業や健康講演会などを開催します。

#### ②農村文化や生活文化の伝承と魅力ある資源の活用

- ・農村文化等の掘り起こしと地域資源の活用を図ります。
- ・干し柿づくりやしめ縄飾りづくりなどの教室の開催とだんごさし行事の伝承に努めます。

#### ③生きがい支援と新しい文化の創造の環境づくり

- ・習い事や芸能の発表の場としてステージを提供し、新しい文化の創造と生きがいつくりを応援します。

#### ④フリーマーケットの開催

- ・もったいない意識の実践として、出し手と引き受け手にメリットのあるフリーマーケットをイベントに合わせて開催します。

## 5 施設指定管理

- ◆方針 「施設の適正な管理と情報発信による地域の活性化を図り、来館者や利用者の立場になって、施設的环境美化と安全性の確保に努めます」

- ・道の駅及び活性化センターの目的に沿った施設の利用促進に努めます。
- ・施設の快適な環境保持のため定期的な点検と駅周辺の美化活動に努めます。
- ・地域の情報発信機能の強化策として重点月を絞ってイベントを企画し情報に努めます。
- ・施設の適正かつ円滑な管理運営と交流人口の増大に努めます。
- ・施設利活用向上のため農産物の加工、栽培技術指導会、健康講演会等を開催します。
- ・施設・設備・機器等の点検等を行い、利用者の利便性と事故の未然防止に努めます。
- ・有事に即対応できる体制づくりのため、防犯訓練と避難訓練や消防訓練を実施します。
- ・日常の管理面では事件・事故・火災の発生防止に努めます。
- ・イベント等の開催により、施設利用の拡大と会員の生きがいつくり、地域コミュニティの増進の定着を図ります。
- ・来館者へのサービス向上と緊急時に対処するため、職員の教育と訓練を徹底します。
- ・当協議会の取組や災害復興プログラムなどを活かした視察・研修の受け入れを積極的に行い、施設の利用頻度を高めます。
- ・道の駅のさらなる利便性と利活用を図るため、施設の改修・整備の検討や備品の更新等について市と協議を進めます。
- ・全館禁煙となった事と受動喫煙防止のため、設置された喫煙所での喫煙に誘導します。

## 6 災害復興プログラムの継続（2021年度の取り組み）

### ①会員の風評被害等による損害賠償請求の支援

- ・震災後から実施している農家の再生産確保支援のため東京電力株式会社に対する損害賠償請求のための個別相談会を設定し、会場の確保とデータ作成等の支援を引き続き

行います。

②各大学や企業への調査研究協力

- ・大学、関係機関によるプロジェクト連携事業への調査等協力と情報公開を図ります。
- ・農産物や耕地等の継続した放射性物質測定の研究等に協力していきます。
- ・災害復興プログラムの10年間の調査・研究の成果の活用に努めます。

③農産物等の測定による安全性の確認（放射性物質の摂取防止）

- ・農産物の放射性物質移行防止のための栽培技術の情報収集を行います。
- ・放射性物質残留測定を継続します。

④農産物の生産拡大と販売出荷支援（風評被害対策）

- ・「東和げんき野菜」の出荷先チャンネルの拡大を図ります。

⑤会員と家族の健康を守る取り組み

- ・正しい知識と理解を得る健康講演会や相談会等を開催します。

⑥調査研究の分析と活用検討

- ・放射能にかかる各種の調査・研究の分析と活用の検討を図ります。

## 7 各補助事業の取組（2021年度）

令和3年度において、下記の補助事業に取り組むこととします。

年度途中で新たな補助事業に取り組む場合は、理事会において協議し、了承を得られた場合にのみ取り組むこととします。なお、記載した事業が不採択の場合は事業への取り組みは行わないこととします。

### ◇ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会事業主体分（連携等も含む）

- ①地域おこし協力隊員活動支援業務（グリーンツーリズム協議会支援）・・・二本松市
- ②野菜生産出荷安定事業（そ菜種苗購入助成事業）・・・・・・・・二本松市
- ③移住コーディネート業務（コーディネート業務）・・・・・・・・二本松市
- ④新規就農者相談業務委託（相談業務）・・・・・・・・二本松市
- ⑤新規就農者研修支援事業（新規就農者育成）・・・・・・・・二本松市

### ◇東和地域グリーンツーリズム推進協議会事業主体分（事務・活動支援を行う）

- ①グリーンツーリズム推進事業（交流・定住促進）・・・・・・・・二本松市観光連盟

### ◇他団体支援（事務・活動支援を行う）

- ①あぶくまふるさとウォーク（地域資源の活用・健康増進）・・・・・・・・二本松市
- ②賑わいづくり支援事業（夏祭り）・・・・・・・・二本松市

## 〈2021年度 年間予定表〉

月	協議会	ものづくり企画部	まちづくり企画部
4	22 消防訓練	荒川区民祭り（中止）	
5	8 決算監査 21 理事会 29 会員総会（書面）		
6	環境整備	さくらんぼフェア	人事院初任者研修受入（中止）
7	理事会	大創業祭	新農業人フェア
8	環境整備	お盆花フェア	
9	東京東和会総会	東和ふるさと祭り 敬老フェア	新農業人フェア ふるさと回帰フェア
10	理事会 上期監査 環境整備 収穫大感謝祭	墨田区民祭り あばれ山車フェア	田舎暮らしモニターツアー
11		収穫大感謝祭 ふくしま道の駅・空の 駅まつり	東和あぶくまふるさとウォーク あんば柿づくり教室 ホールボディカウンター
12	理事会	木幡の幡祭りフェア 年末感謝セール	しめ縄づくり教室 ふくしま大交流フェスタ
1	会員新年会 消防訓練	年始初売り	会員健康増進事業 新・農業人フェア
2		節分フェア	だんごさし体験 田舎暮らしモニターツアー
3	理事会 決算棚卸	春彼岸フェア	
共 通 事 項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者会議（基本毎月）</li> <li>・合同会議（基本毎月）</li> <li>・理事会（都度）</li> <li>・会員広報／年4回発行（4月、7月、10月、1月）</li> </ul>		